

授 業 科 目 名	国語科教育概論 I (Introduction to Japanese Language Teaching I)		
科 目 番 号	9430111	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・1時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	甲斐 雄一郎		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木4		
授 業 の 到 達 目 標	中学校および高等学校の理解領域(古典を含む読むこと)および国語に関する事項の基本的なポイントを理解できるようにする。また、授業をめぐる議論を根拠づける動向について知ること、授業の具体的な技術や方法について理解を深める。		
授 業 の 概 要	中学校および高等学校の理解領域(古典を含む読むこと)および知識・技能に関する事項について、教育界を取り巻くさまざまな動向をみることで、そのポイントについて考える。		
授 業 計 画	第 1 回 国語科における理解領域の位置づけとその変遷 第 2 回 PISA の理念および出題内容 第 3 回 全国学力・学習状況調査における評価の観点 第 4 回 国語教育における実践の動向 第 5 回 読むことの指導(文学的文章) 第 6 回 読むことの指導(説明的文章) 第 7 回 言語文化の指導(古文) 第 8 回 言語文化の指導(漢文) 第 9 回 ことばの特徴や使い方の指導(書写を含む) 第 10 回 情報の扱い方の指導 試験		
成 績 評 価 方 法	討議への参加、試験などを総合して行う。		
テ キ ス ト	なし		
参 考 文 献	全国大学国語教育学会編(2019)『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』東洋館出版社 日本国語教育学会編(2011)『国語教育総合事典』朝倉書店 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領解説 国語編』		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	中学校、高等学校の教材を中心とする各種作品の読書		
受 講 学 生 に 望 む こ と	毎回のグループ討議への参加が必須。		
備 考	旧課程の国語科教育概説 I に対応。		

授 業 科 目 名	国語科教育概論Ⅱ (Introduction to Japanese Language Teaching II)		
科 目 番 号	9430121	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	水曜・2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	長田 友紀		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜 3 時限(要アポ)		
授 業 の 到 達 目 標	中学校および高等学校の表現領域(話すこと・聞くこと・書くこと)および ICT を活用した授業の基本的なポイントを理解できるようにする。また、表現活動の指導を経験したり、それを観察したりすることで、授業の具体的な技術や方法について理解を深める。		
授 業 の 概 要	中学校および高等学校の表現領域(話すこと・聞くこと・書くこと)および ICT を活用した国語の授業について、学校現場におけるさまざまな実践事例をみることで、そのポイントについて考える。		
授 業 計 画	第 1 回 国語教育における表現領域の位置づけとその変遷 第 2 回 コミュニケーション能力論および表現領域の実践や研究の動向 第 3 回 表現領域の評価方法 第 4 回 話すこと・聞くことの指導(スピーチ) 第 5 回 話すこと・聞くことの指導(話し合い) 第 6 回 話すこと・聞くことの指導(対話) 第 7 回 書くことの指導(論理的な文章) 第 8 回 書くことの指導(創作的文章) 第 9 回 融合的な指導(読む・書く・話す・聞く) 第 10 回 情報機器およびその教材を活用した表現の指導 定期試験		
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポート、定期試験などを総合して行う。		
テ キ ス ト	なし		
参 考 文 献	全国大学国語教育学会編(2019)『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』東洋館出版社 日本国語教育学会編(2011)『国語教育総合事典』朝倉書店 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	講義の復習や与えられた課題を適宜行うこと。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	表現の指導について学ぶことから、受講者自身も積極的に表現活動を行うこと。		
備 考	旧課程の国語科教育研究法Ⅰに対応。		

授 業 科 目 名	国語科教育演習 I (Seminar on Japanese Language Teaching I)		
科 目 番 号	9431114	授 業 形 態	講義・演習
単 位 数	2 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB, 秋 C	曜 時 限	水曜・1 時限, 水曜・1、2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	甲斐雄一郎		
オ フ ィ ス ア ワ ー	木4		
授 業 の 到 達 目 標	中学校および高等学校の理解領域(古典を含む読むこと)および知識・技能に関する授業づくりのポイントを理解する。また自分が参考にしたい実践事例を自ら探しだし、批判的に検討しながら活用できるようにする。		
授 業 の 概 要	<p>中学校および高等学校の理解領域(古典を含む読むこと)および知識・技能について実際の指導方法を体験したうえでグループ別に教材を選定し教材研究を行い、それに基づく模擬授業を行う。模擬授業ではこれまで提案された指導方法について検討することを通して、学習指導案作成や授業研究の基礎を学び、その力量を向上させる。</p> <p>第 1 回から第 11 回では、理解領域および知識・技能に関する領域の既存の教科書の検討を通して教材選定の理由および教材研究の観点を理解する。第 12 回から第 19 回では、既存の実践事例を参照しつつ作成した指導案に基づき模擬授業を行う。</p>		
授 業 計 画	<p>授業計画</p> <p>第 1 回 リテラシーのとらえ方に関する動向</p> <p>第 2 回 小学校・中学校・高等学校における教材編成の系統</p> <p>第 3 回 中学校国語科用教科書の編集原理</p> <p>第 4 回 高等学校国語科用教科書の編集原理(現代文)</p> <p>第 5 回 高等学校国語科用教科書の編集原理(古典)</p> <p>第 6 回 中学校国語科用教材研究及び指導と評価の観 points の検討(文学的文章・説明的文章)</p> <p>第 7 回 中学校国語科用教材研究及び指導と評価の観 points の検討(知識・技能)</p> <p>第 8 回 高等学校国語科用教材研究及び指導と評価の観 points の検討(文学的文章)</p> <p>第 9 回 高等学校国語科用教材研究及び指導と評価の観 points の検討(説明的文章)</p> <p>第 10 回 高等学校国語科用教材研究及び指導と評価の観 points の検討(古典)</p> <p>第 11 回 高等学校国語科用教材研究及び指導と評価の観 points の検討(国語の特質に関する事項)</p> <p>第 12 回 中学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(文学的文章)</p> <p>第 13 回 中学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(説明的文章)</p> <p>第 14 回 中学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(知識・技能)</p> <p>第 15 回 高等学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(文学的文章)</p> <p>第 16 回 高等学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(説明的文章)</p> <p>第 17 回 高等学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(古文)</p> <p>第 18 回 高等学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(漢文)</p> <p>第 19 回 高等学校国語科用学習指導案に基づく模擬授業(言語事項)</p> <p>第 20 回 まとめ</p> <p>試験</p>		
成 績 評 価 方 法	作成した教材集、学習指導案や模擬授業の内容、試験などを総合して行う。		
テ キ ス ト	なし		
参 考 文 献	<p>全国大学国語教育学会編(2019)『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』東洋館出版社</p> <p>日本国語教育学会編(2011)『国語教育総合事典』朝倉書店</p> <p>日本国語教育学会編「月刊 国語教育研究」</p> <p>文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 国語編』</p> <p>文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領解説 国語編』</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	中学校、高等学校国語教科書の編集原理の確認		
受 講 学 生 に 望 む こ と	毎回のグループ討議・編集作業などへの参加が必須。		
備 考	旧課程の国語科教育概説Ⅱに対応。		

授 業 科 目 名	国語科教育演習 II (Seminar on Japanese Language Teaching II)		
科 目 番 号	9431124	授 業 形 態	講義・演習
単 位 数	2 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	火曜・1 時限、水曜・2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	長田 友紀		
オ フ ィ ス ア ウ ー	木曜 3 限 ( 要 アポ )		
授 業 の 到 達 目 標	中学校および高等学校の表現領域の授業づくりのポイントを理解する。また自分が参考にしたい実践事例を自ら探しだし、批判的に検討しながら、活用できるようにする。		
授 業 の 概 要	<p>中学校および高等学校の表現領域(話すこと・聞くこと・書くこと)について実際の指導方法を経験したうえで、マイクロティーチングによる模擬授業を行う。また、これまで提案された指導方法について自ら取り上げて検討したりすることを通して、国語科における学習指導案作成や授業研究の基礎を学び、その力量を向上させる。</p> <p>第 1 回から第 11 回では、表現領域の各指導方法を実際に体験したうえで、マイクロティーチングを行う。第 12 回から第 19 回では、自らが興味のある実践事例を教育関係の雑誌類から探して、そのポイントや問題点について検討する。</p>		
授 業 計 画	<p>授業計画</p> <p>第 1 回 表現指導のポイント</p> <p>第 2 回 スピーチの指導の教材研究と指導案作成(演習)</p> <p>第 3 回 スピーチの模擬授業(マイクロティーチング)</p> <p>第 4 回 話し合いの指導の教材研究と指導案作成(演習)</p> <p>第 5 回 話し合いの模擬授業(マイクロティーチング)</p> <p>第 6 回 論理的な文章の指導の教材研究と指導案作成(演習)</p> <p>第 7 回 論理的な文章の模擬授業(マイクロティーチング)</p> <p>第 8 回 創作的な文章の指導の教材研究と指導案作成(演習)</p> <p>第 9 回 創作的な文章の模擬授業(マイクロティーチング)</p> <p>第 10 回 ICT を活用した表現指導の教材研究と指導案作成(演習)</p> <p>第 11 回 ICT を活用した表現指導(マイクロティーチング)</p> <p>第 12 回 国語科授業分析の事例</p> <p>第 13 回 授業実践の探し方・分析の仕方</p> <p>第 14 回 グループでの授業分析の検討</p> <p>第 15 回 話すこと・聞くことの授業分析(スピーチ)</p> <p>第 16 回 話すこと・聞くことの授業分析(話し合い)</p> <p>第 17 回 話すこと・聞くことの授業分析(対話)</p> <p>第 18 回 書くことの授業分析(論理的な文章)</p> <p>第 19 回 書くことの授業分析(創作的文章)</p> <p>第 20 回 まとめ</p> <p>定期試験</p>		
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポート、演習やマイクロティーチングの内容、定期試験などを総合して行う。		
テ キ ス ト	なし		
参 考 文 献	<p>全国大学国語教育学会編(2019)『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』東洋館出版社</p> <p>日本国語教育学会編(2011)『国語教育総合事典』朝倉書店</p> <p>日本国語教育学会編「月刊 国語教育研究」</p> <p>「実践国語研究」明治図書</p> <p>「教育科学 国語教育」明治図書</p> <p>文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 国語編』</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	講義の復習や与えられた課題を適宜行うこと。		

受講学生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・第 1 回目の授業時に、グループ編制を行うので必ず出席すること。</li><li>・表現の指導について学ぶことから、受講者自身も積極的に表現活動を行うこと。</li></ul>
備考	旧課程の国語科教育研究法Ⅱに対応。

授 業 科 目 名	国語科指導法( Teaching Method in Japanese Language Teaching )		
科 目 番 号	9432114	授 業 形 態	講義
単 位 数	2 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋学期	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	秋田 哲郎 奥村 準子		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	中等教育で実際に教壇に立つにあたり必要な知識などを身につけ、自身で授業を組み立てる方策を涵養できるようにする。		
授 業 の 概 要	<p>第 1 回から第 10 回は、主として中学校における国語科の実際の授業や評価事例をみたくうえで、学習指導案作成のポイントを学び模擬授業を行う。</p> <p>第 11 回から第 20 回は、古典(古文・漢文)教育について取り扱う。古文・漢文の基礎的知見を学びつつ、実践例などにも言及しながらその問題点と対応の仕方について考える。また具体的な教材研究の方法・着眼点、授業の方法等を紹介したうえで、模擬授業を実施する。</p>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 話すこと・聞くことの指導の実際と評価</p> <p>第 2 回 書くことの指導の実際と評価</p> <p>第 3 回 読むこと(説明的文章)の指導の実際と評価</p> <p>第 4 回 読むこと(文学的文章)の指導の実際と評価</p> <p>第 5 回 知識及び技能の指導の実際と評価</p> <p>第 6 回 読書指導の実際</p> <p>第 7 回 国語科の授業分析</p> <p>第 8 回 学習指導案の作成</p> <p>第 9 回 模擬授業</p> <p>第 10 回 模擬授業についての協議</p> <p>第 11 回 中学・高校における古文漢文指導の実際と評価</p> <p>第 12 回 古文指導のための基礎知識</p> <p>第 13 回 教材研究(説話・中古散文作品)</p> <p>第 14 回 指導案作成(古文)</p> <p>第 15 回 模擬授業(古文)</p> <p>第 16 回 漢文指導のための基礎知識</p> <p>第 17 回 教材研究(思想教材・史伝・漢詩)</p> <p>第 18 回 古文の文法と漢文の句法の指導について</p> <p>第 19 回 指導案作成(漢文)</p> <p>第 20 回 模擬授業(漢文)</p> <p>試験</p>		
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポート、演習の内容、定期試験などを総合して行う。		
テ キ ス ト	なし		
参 考 文 献	<p>文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 国語編』</p> <p>文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領解説 国語編』</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	旧課程の国語科教材研究に対応。		